

第 65 号	Super Highway	
発行日 2023.11. 7	J R 東労組バス関東本部	J R 東労組ホームページ

2023 年末手当満額回答！ 組織強化・拡大！！

昨日 16 時より東京支店会議室において、申 2 号「2023 年度年末手当等に関する申し入れ」の趣旨説明を行ってきました。以下、趣旨説明概略です。

JR 東労組は、この間ポストコロナの時代変化と会社の経営状況を認識し、組合員と危機感を共有しながら安全を最大の価値基軸に据え、雇用と生活を守るための議論をしてきました。

新型コロナウイルスが 5 類となり、国内旅客の回復とインバウンドの需要増で、2022 年度 12 月期の収支実績が 35 ヶ月ぶりの単月黒字を実現し、さらに 2023 年度 8 月単月でも計画を上回り 1 億 400 万円の黒字を達成、2023 年度計（8 月まで）で 2800 万円の黒字達成しました。 ～（中略）業績改善していることを主張～

一方、食料品やガソリン代、電気代など幅広い品目の値上げがされる現状において、生活給となっている期末手当がコロナ禍前と比べると減収となり、将来への不安を抱き離職の道を選ぶ組合員・社員がいる現実もあります。

また、全国的にみてもバス運転士の不足・車両係の不足は社会問題となるほど深刻な状況のなか、2024 年 4 月からバス運転者の改善基準告示が改正され、「2024 年問題」と報道されている昨今、バス運転士・車両係の人材定着と確保は労使共通の喫緊の課題であり、組合員・社員の仕事に対するモチベーションの向上が必要不可欠です。

ポストコロナで、黒字を達成。圧縮行路・休日出勤など要員不足が明白な中で黒字達成できているのは、組合員の努力の結果である。

車両職場では、スカニア車両などの整備、コストの削減などで努力している。営業職場では、成田便がコロナ前の水準まで戻っている。

一方で、生活物資の値上げがあり、コロナ前と比べて実質減収になっている。将来への不安で若い人材が他の会社へ行ってしまうという状況がある。

全国的に見てもバスの運転手不足・車両係の不足は問題であり、2024 年問題が報道されている昨今、乗務員、車両係の確保は組合、会社共通の喫緊の課題である。

従って、社員が将来に希望が持てる会社をめざすためにも要求満額回答を強く求めて、趣旨説明とします。

JRバス関東で働く仲間を一つに！